

### F1 初参戦から 60 年を記念しウェブサイトを開 ～F1 初参戦マシン RA271 の展示・F1 初優勝マシン RA272 のデモ走行も実施～

Honda は、1964 年 8 月 2 日の FIA<sup>※</sup>フォーミュラ・ワン世界選手権（以下、F1）初参戦から 60 年を迎えることを記念し、Honda のモータースポーツの歴史、現在の活動などを網羅的に紹介するウェブサイト「Honda Motorsports ウェブサイト」を公開しました。また、1964 年の F1 初参戦マシン「RA271」を Honda ウェルカムプラザ青山（東京都港区／以下、ウェルカムプラザ）で展示するとともに、参戦 2 年目の 1965 年に Honda の F1 初優勝を飾ったマシン「RA272」のデモ走行を 2024 年 8 月に米国で開催される「Monterey Car Week 2024（モンレー・カー・ウィーク 2024）」にて実施します



RA271



RA272

#### 【Honda Motorsports ウェブサイト公開】

Honda のモータースポーツの原点や歴史に加え、現在の活動やイベントを継続的に発信するウェブサイト新たに制作し、公開しました。F1 初参戦から 60 年となる今年と、F1 初優勝から 60 年となる来年は F1 を中心に、今後順次コンテンツを拡充していきます。

本サイトには、1965 年メキシコグランプリの撮影フィルムを復刻したカラー映像や、RA272 のデモ走行が行われた英国のモータースポーツイベント「Goodwood Festival of Speed 2024（グッドウッド・フェスティバルオブスピード）」の映像・イベントレポートなどを掲載します。

**Honda Motorsports ウェブサイト URL** : <https://global.honda.jp/motorsports/>

※ Fédération Internationale de l'Automobile（国際自動車連盟）の略称

## 【F1 初参戦マシン RA271 展示・初優勝マシン RA272 デモ走行】

Honda が 1964 年に F1 初参戦したマシン RA271 の展示を、2024 年 8 月 2 日から 8 月 20 日までウエルカムプラザで行います。当時の F1 用エンジンでトップとなる最高出力 220 馬力の 1500cc V 型 12 気筒エンジンを搭載したマシンで、ドイツ・アメリカ・イタリアグランプリの 3 レースを戦いました。

また、米国カリフォルニア州モンレー半島で行われる Monterey Car Week 2024 のイベントのひとつである Rolex Monterey Motorsports Reunion (ロレックス・モンレー・モータースポーツ・リユニオン) にて、2024 年 8 月 17 日に F1 初優勝マシン RA272 のデモ走行を実施します。走行するマシンは 1965 年メキシコグランプリでリッチー・ギンサー選手が Honda として初優勝を飾った実機であり、これまで栃木県にある Honda Collection Hall で動態保存してきました。

なお、これに先駆け、2024 年 7 月に英国で開催された Goodwood Festival of Speed 2024 では、F1 ドライバー角田裕毅 (つのだゆうき) 選手が RA272 のデモ走行を行っています。



Goodwood Festival of Speed 2024 で角田選手がドライブした RA272

## 【F1 参戦から 60 年の歴史】

### 第 1 期 (1964 年～1968 年)

Honda は初めて四輪車を発売した翌年、1964 年 8 月のドイツグランプリにて、世界最高峰の四輪レース F1 に初参戦を果たしました。無謀ともいえる挑戦でしたが、参戦 2 年目の 1965 年、最終戦メキシコグランプリにて、エンジン、シャシーともに純粋な Honda 製マシンで、初優勝を成し遂げます。モータースポーツにおいては量産車と比べて極めて短期間にマシン開発を行い、その技術の優劣がレース結果で誰の目にも明らかになることから、技術者を育てるのに最適な道場であると Honda は考え、F1 に参戦しました。

## 第 2 期（1983 年～1992 年）

四輪市販車の開発に注力するため、1968 年を最後に F1 から撤退していましたが、1983 年、Honda は 15 年ぶりに F1 への復帰を果たします。翌 1984 年に復帰後の初勝利を挙げると、1986 年にコンストラクターズタイトル、1987 年にはドライバー、コンストラクターのダブルタイトルを手にします。1988 年には開幕から 11 連勝し 16 戦中 15 勝。1992 年で活動を休止するまでの 10 年間で通算 69 勝、5 年連続ダブルタイトル獲得といった金字塔を打ち立てました。



1987 年チャンピオン ネルソン・ピケ選手



1988 年チャンピオン アイルトン・セナ選手

## 第 3 期（2000 年～2008 年）

1992 年の撤退から 8 年の時を経て、2000 年に Honda は F1 へ復帰します。B・A・R（British American Racing）へのエンジン供給および車体の共同開発という新たなスタイルでした。2004 年にはコンストラクターズランキング 2 位を獲得、そして 2006 年には Honda 単独の Honda Racing F1 Team として参戦。第 13 戦ハンガリーグランプリで悲願の復帰後初優勝を果たしました。



2006 年ハンガリーグランプリ優勝 ジェンソン・バトン選手

#### 第4期（2015年～2021年）

Hondaは2015年、McLarenとタッグを組みF1へ挑戦します。結果が出ない厳しい3年間を経て、2018年にパートナーをScuderia Toro Rossoに変更。2019年にはRed Bull Racingともパートナーを組み、オーストリアグランプリで13年ぶりの勝利を挙げます。そして2021年、ついにマックス・フェルスタッペン選手がドライバーズタイトルを獲得。開発部門や生産部門が持つ知見と技術を最大限に盛り込み、Hondaの力を結集して掴んだ栄光でした。この2021年をもってHondaは参戦を終了し、2022年からはOracle Red Bull Racing及びScuderia AlphaTauri（現チーム名 Visa Cash App RB F1 Team ビザ・キャッシュアップ・RB・フォーミュラ・ワン・チーム）のチームパートナーとして、技術支援を行っています。



2021年チャンピオン マックス・フェルスタッペン選手

#### 第5期（2026年～）

Hondaは2026年からF1に再参戦し、Aston Martin Aramco Formula One® Team（アストンマーティン・アラムコ・フォーミュラ・ワン・チーム）にパワーユニットを供給します。2026年以降のF1のパワーユニットは、100%カーボンニュートラル燃料の使用が義務付けられるとともに、エンジンと電動モーターの出力が同等となります。このF1の新たなレギュレーションが、Hondaの目標とするカーボンニュートラルの実現に向けた技術の方向性と合致し、その実現に向けた将来技術の開発に大きな意義を持つことから、参戦を決定しました。

## 【Honda の主な F1 活動】

- 1964 年～1968 年 エンジン・車体を含めたオール Honda として参戦
- 1965 年 メキシコグランプリで初優勝
- 1983 年～1992 年 エンジンサプライヤーとして参戦
- 1986 年 Williams Honda としてコンストラクターズタイトルを獲得
- 1987 年 ドライバーズチャンピオンとコンストラクターズチャンピオンのダブルタイトル獲得
- 1988 年～1991 年 McLaren Honda として 4 年連続でドライバーズチャンピオンとコンストラクターズチャンピオンのダブルタイトル獲得
- 2000 年～2005 年 B・A・R Honda としてエンジン供給と車体の共同開発による参戦
- 2006 年～2008 年 エンジン・車体を含めたオール Honda として参戦
- 2015 年～2017 年 パワーユニットサプライヤーとして参戦  
McLaren にパワーユニットを供給
- 2018 年 Scuderia Toro Rosso にパワーユニット供給を開始
- 2019 年 Red Bull Racing にパワーユニット供給を開始
- 2021 年 Red Bull Racing のマックス・フェルスタッペン選手が  
ドライバーズチャンピオン獲得  
2021 年をもって F1 参戦を終了
- 2022 年 Red Bull Powertrains へ HRC が技術支援を開始 Red Bull Racing と  
マックス・フェルスタッペン選手がコンストラクターズチャンピオンと  
ドライバーズチャンピオンのダブルタイトル獲得
- 2023 年 2026 年からの F1 再参戦を発表  
コンストラクターズチャンピオンとドライバーズチャンピオンの  
ダブルタイトルを 2 年連続で獲得